

芦川町は、甲府盆地と富士山麓の中間、御坂山塊のほぼ中央に位置し、黒岳（標高1792）に源を発する芦川の上流にあり、総面積の92%は山林、原野で占められています。上芦川、新井原、中芦川、鶯宿の4つの集落は概ね標高600～1000の溪谷沿いに点在しています。

山間地特有の気候で11月から翌年3月までは、各月とも最低気温は氷点下を記録し、年間平均気温は約10・5で市内の盆地部と比較して約5前後低くなります。

さて、芦川地域というはずらんの群生地。5月中旬から6月上旬にかけて白樺林の中で可憐な花が咲き、周囲に心地よい香りを漂わせます。

また、山の斜面に積み上げられた石垣と兜造りの民家がいたるところで見られます。

石垣は、先人たちが山地の傾斜を何とか利用できないかと、少しずつ丹念に自然石を積み上げては開墾した努力の賜物で、この畑で高冷地野菜としてほうれん草やこんにやくの栽培が行われています。この石垣には、洞穴が設けられて

緩やかな芦川の流れ



訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第19回

～芦川町の魅力～

いて作物の貯蔵や農機具の保管に使われています。

兜造りの民家は、屋根が「兜造り」といわれる形式で、養蚕のために棟が突き出たものであり、昔（昭和以前）は、50～60年に一度の割合で葺き替えが行われましたが、昭和期に入り手間の煩雑さなどにより茅の上からトタン葺きに変える家が目立ちはじめ、昭和31～32年以降屋根替えの作業は行われなくなりました。

四季の移ろいを彩る周囲の山、緩やかに流れる芦川、見事な造形



兜造りの民家 / 鶯宿



石垣の造形美 / 新井原

美の石垣、どっしりとした家構えの兜造りの家は、豊かな自然に恵まれた「ふるさとの風景」を彷彿とさせます。

また、歴史的には、原始時代から中世にかけての遺跡等はほとんどありませんが、平成11年3月に中芦川地区で、農業集落排水污水处理施設建設事業に先立ち、始めて本格的な埋蔵文化財の発掘調査が行われ、平安時代の住居址等が確認されました。以前から畑を耕すと土器が出ると言われていたため、この発掘調査により、平安時代にはこの地域で生活していた人々が存在したことが確認でき、大変貴重な資料を得ることができました。